

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- ・学ぶことの楽しさを体験し、学習意欲を高めるとともに学びの質を向上させる。
- ・言語活動を充実し、自分で考えたことを表現できる児童を育てる。
- ・国語・算数・社会・図工を中心に授業実践に取り組み、授業改善につなげる。
- ・総合的な学習の時間や生活科など、問題解決的な学習を行い、知的好奇心や探求心を育む。
- ・個に応じた学習方法を工夫する。
- ・学習規律を定着させ、落ち着いた学習環境の中での教育活動を推進する。
- ・学力テストの結果を受け、分析し指導に生かす。
- ・基本的な学習習慣の確立を啓発し、家庭学習の定着を図る。

【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容】

国・社・算・理の4教科全てにおいて、調布市の平均正答率を上回っており、学習の実現状況は良好であるといえる。しかし国・社・算の3教科において学力の2極化傾向が見受けられた。正答率7割以下の児童に対する指導を工夫し、基礎学力の定着を図る必要がある。

国語は、段落ごとの内容を読み取り段落相互の関係を捉える指導や、主語述語、修飾被修飾の関係を理解するような言葉の決まりに関する指導をし、読み解く力を充実させていく必要がある。**社会**は、観察・資料活用の技能に課題があり、日々の学習において地図帳の活用を促し、問題解決の過程で資料から必要な情報を取り出したり読み取ったりする力を養っていくことが大切である。**算数**では作業的体験的活動を取り入れ、量感を養っていくとともに、課題を的確に捉え、必要な情報を取り出して考え、解決していく学習に力を入れていく必要がある。**理科**は、実験器具の扱い方を身に付けさせていくと同時に、別々の実験結果を結び付けて考えるような学習活動を取り入れていく必要がある。

【授業改善の方針・目標】

校内研究主題「考えたことを表現する児童の育成～言語活動の充実を通して～」を軸にした授業改善を図り、思考力・表現力の育成を目指す。

○「言語活動」⇒「説明すること」 ○「書く」活動の重視 ○学び合い(再構成)の場の設定 ○一単元及び一単位時間(45分)の指導の流れの工夫【つかむ⇒分かる(調べる)⇒深める・広げる】

【授業改善のための具体的な取組】

国語:どの学年においても音読や漢字の書き取りに日常的に取り組むとともに、読書活動と単元の学習を結び付けて基礎学力の定着を図る。また、用語やスキルなど教えるべき内容と考えさせる内容を整理して指導にあたる。

低学年では主語述語の文の基本をしっかり押さえ、順序に気を付けて文章を捉え、表現できるようにする。

中学年では段落ごとの要点を読み取るとともに、段落相互の関係に注意して表現できるようにしていく。

高学年では主題や要旨を的確に押さえ、文章構成や表現の効果を考えながら表現できるようにする。

社会:中学年では、地域における社会的現象を観察・調査するとともに、地図などの資料を効果的に活用できるように基本的知識の定着を図り、47都道府県の名称や位置、特色を理解できるようにする。

高学年では、我が国の国土や産業、歴史、政治、国際について各種の基礎的資料を効果的に活用して調べ、それを基に社会的現象の意味について考え、表現できるようにしていく。

算数:少人数展開ができる良さを活かし、発達段階に応じて習熟度別指導を取り入れ、個々の児童の実態に応じた手だてがとれるようにする。殊に基礎学力の定着が不十分な児童への支援を強める。

低学年では、主に具体物を用いた活動を通して量感を豊かにするとともに、整数の加法・減法及び乗法の意味を理解し、繰り上がり繰り下がりの計算や九九が確実に身に付くよう、ドリル学習を重ねていく。

中学年では、主に分数・小数の意味や表し方を理解するとともに、簡単な加法・減法ができるようにする。また、整数の乗法が確実にできるようにするとともに除法についてその意味を理解し、問題に応じて適切に計算を用いることができるように多様な考え方を学び合う学習を大切にしていく。

高学年では、主に分数・小数の乗法・除法が確実にできるようにその意味を理解し、問題に応じて適切に四則計算を用い、それらを組み合わせるなど、既習事項を生かしながらより良い求め方を考え、学び合う学習を積み重ねていく。

理科:どの学年においても実感を伴った理解を大切に、実験器具の扱い方など、体験的に身に付けさせていくようにする。また、観察や実験から得られた事柄を整理したり考察したりする中で、考えを深め合う活動を大切にする。

中学年では、主に様々な観察・実験の中で比較したり関係付けたりしながら調べる視点を学び、科学的なものの見方の素地を養うようにする。

高学年では、主に現象の要因や規則性について考え、条件制御したり推論したりしながら確かめる力を養っていくようにする。また、自分の考えを図や表を用いて表現し、交流するようにする。

生活:具体的な活動や体験を通して、自分と身の回りの人々や自然、社会とのかかわりについて気付いたり考えたりできるようにする。また、その気付きや考えを言葉や絵、動作など様々な表現方法で表わしていくようにする。

音楽・図画工作・家庭:創作過程での交流や作品を鑑賞し合う場を大切に、言葉や絵、演奏など様々な表現方法を用いて自分の思いや考えを説明する活動を意図的に取り入れていく。

体育:体力テストの結果を踏まえ、ボールの基本的な扱い方を丁寧に指導したり、持久走や縄跳びを全校で取り組み、段階別ロードを用いて児童の意欲的な取り組みを促したりして体力の向上を図るようにする。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- ・1学期に行った7回の研究授業を通して、講師の方々からご指導いただいたことを具現化する場が2学期である、と捉え、10月28日の研究発表に向けて授業改善を重ねる。発表会当日の授業について、参観者の方々や講師の方々から寄せられる感想・評価及び協議会での質疑応答を、更なる授業改善の機会と受け止め、校内研究を深めていく。
- ・管理職による授業観察を9～10月と1～2月に行い、参観後に評価を授業者に伝え指導を行う。また、授業者は授業日時を職員室黒板に掲示し、教員同士が互いの授業を見合い、学び合う場としても機能するようにする。
- ・12月に実施する学校評価は、内部評価とともに外部評価も行い、結果を次年度の授業改善に活かしていく。